

実技評価の方法（実技評価基準）

介護技術度合いの評価方法については、こころとからだのしくみの総合生活支援技術演習の時間内において、各手順について定めたチェックリストを用いて行う。

チェックリストについては別添の「技術演習評価チェックリスト」1から7を使用する。

各項目とも理解度の高い順にA、B、C、Dの4区分より評価を下し、**B以上の者を合格とする。**

なお、評価の区分を示す判断基準は以下の通りとする。

A=基本的な介護（介助）を的確に行える。

B=基本的な介護（介助）を概ね行うことができる。

C=介護（介助）の技術が不十分である。

D=介護（介助）を全く行うことができない。

※上記の認定水準に達しない場合には水準を満たすまで補講等を実施する。

補講は1時間3,300円(税込)の有償とする。

※評価担当は講義担当の講師とする。

修了評価の方法（修了評価基準）

- 全科目を履修し、且つすべての実技評価合格基準を満たしたことを前提とする。
- 筆記試験を実施する。（1 時間）※研修時間の 130 時間に含まない。
- 評価を行う講師：白井 志保美、阿部 美知子、宮脇 幸子、
松本 ムツ子、川西 嘉津子、宮崎 孝男

1 出題形式・出題数

- ・ 出題形式 全て四肢択一形式
- ・ 出題数(配点)及び試験時間
 - 2 介護における尊厳の保持・自立支援…3 問(9 点)
 - 3 介護の基本…5 問(15 点)
 - 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携…6 問(18 点)
 - 5 介護におけるコミュニケーション技術…3 問(9 点)
 - 6 老化の理解…3 問(9 点)
 - 7 認知症の理解…6 問(18 点)
 - 8 障害の理解…4 問(12 点)
 - 9 こころとからだのしくみと生活支援技術…3 問(6 点)
 - その他 事例問題…2 事例…2 問(4 点)
 - (合計 35 問)
- ・ 配点

問 1 から問 30 まで(30 問)	各 3 点
問 31 から問 35 まで(5 問)	各 2 点
- ・ 満点 100 点満点
- ・ 試験時間 60 分

2 合否判定基準 70 点以上を合格基準とする。

- ・ 合否判定基準は、次のとおり、理解度の高い順に A、B、C、D の 4 区分とし、
C 以上で合格と認定する。
※合否判定基準(100 点を満点とする)
※A=90 点以上、B=89～80 点、C=79～70 点、D=70 点未満

3 合否判定で「不合格」となったときの取扱い

- ・ 正答率 70%の合格基準を満たせなかった者については、原則として個別対応形式での補講を対面にて実施する。（回数＝1 回、時間については訓練生の状況を鑑みて講師が適宜判断する）
なお人数が多い場合についてはグループ単位で行うこともある。
修了評価試験の採点結果を基に、理解が低いと思われる分野、得点状況の低い分野か

ら優先的に補講を実施し、各科目・分野の到達目標をクリアできるようポイントを理解させる。

- ・補講は1時間 3,000 円（税別）の有償とする。
- ・上記の補講を行った上で、類似する内容での再試験を別日に実施する。
70 点以上の得点者を、修了試験の合格基準を満たした者とする。